

中だるみの2年生から 学校を支える2年生へ

2年生0学期
の使い方

時期の特徴

文理選択が終わり、生徒、保護者ともに一安心している。行事なども多いため面談の時間が取りにくく、保護者と密に連絡を取ることも難しくなる。

指導のポイント

入試業務などで生徒や保護者との接点が少なくなる中で最大の効果を発揮するため、保護者を「チームの一員」として巻き込み、2年生に向けて生徒の力を伸ばす。

※このコーナーは、高校の先生方との検討会を経て制作しております。

目的別データ活用

1 2年生が中核となる 学校生活や 行事の意義を示す

……→ 図1

◎2年生になると高校生活への慣れや多忙さから、学習習慣や生活習慣が乱れる生徒が出やすい。また、そのような子どもの変化を機に、保護者の学校に対する不満が大きくなることもある。保護者にも進級前に、2年生とはどんな学年なのか、学校はどのような方針で指導を行っているのかを伝えておきたい。この時期から2年生の5月、6月頃まで保護者と学校の接点は少なくなるため、学校とのつながりを途絶えさせない情報発信が必要だ。学校の姿勢を理解してもらうことで、教師、保護者がチームとなって2年生になる生徒の力を伸ばしていくことをねらう。

2 卒業生の体験から、 2年生の在り方を 浸透させる

……→ 図2

◎本来2年生は、中だるみの時期ではなく、学校の中核となって活躍する時期である。理想とする2年生像を保護者に伝えることで、保護者に2年生となった我が子のかかわり方をイメージしてもらおう。そこで、卒業生の体験談などを用いて「授業中心の学習に取り組んでいたので、部活動や行事に熱中しても結果的に志望校に合格することが出来た」といったエピソードを紹介する。このような先を見通した発信により、2年生では何を大切にすべきかを保護者に伝えることが出来る。保護者と共に、目指すべき「2年生像」を追究していきたい。

対保護者
への
データ

目指すべき「2年生像」を共有し
保護者を「チームの一員」に巻き込む

データを用いた指導の流れ

STEP 1

◎2年次に行われる行事の意義を学年団で洗い出し、保護者に協力をお願いする内容をすり合わせる（図1）

STEP 2

◎合格体験記を保護者向けにアレンジし、一覧化する。体験記が蓄積されていない学校では合格の決まった3年生にヒアリングを行う（図2）

STEP 3

◎図1、図2を学年団で共有し、自校の2年生の在り方について改めて目線を合わせる

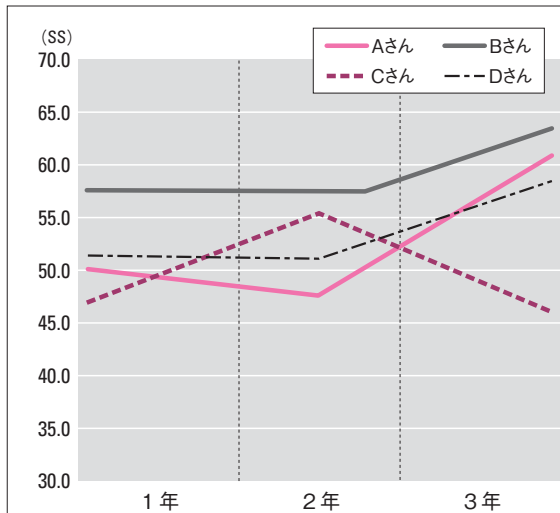
STEP 4

◎図1と図2を学年通信や学校 Web サイトに掲載し、保護者に対して2年生1学期をより良く迎えるための準備を促す

図1 保護者向け「2年生の意義」確認シート

	1年生との違いと2年生の意義	保護者へのお願い
部活動	後輩たちを引っ張りながら、自分たちの力で集団を高めていく。	大会や発表会前に部活動中心の生活になってしまうのは、集団に対する責任を全うしようとしている表れでもあります。人間的成長と捉えて応援してあげてください。ただ、食事を一緒に取る、決められた家事手伝いをするなど、それぞれの家庭のルールはきちんと守らせて、家族との生活も集団生活の一つであることを教えてください。
	目標に向けてやり抜くエネルギーを、学習にも向けていく。	部活動を大切にしながら、最低限の家庭学習は続けるように指導します。家庭学習に取り組む様子を目にしたら「疲れていてもきちんと勉強に取り組んでいる」ことを評価して、声を掛けてあげてください。
模試・実力テスト	苦手科目・分野を具体的に把握する。	模試の目的の一つに、苦手科目や分野を発見し、その克服に着手するということがあります。結果に一喜一憂するよりも、模試の結果を踏まえて、学習計画を見直すことを重視してください。
	志望する大学について視野を広げる。	この時期の合否判定は、目安に過ぎません。むしろ、模試を契機に、自分が進学したい大学、学んでみたい学問を考えることに意味があります。「そんな大学、受かるわけがない」などの言葉は禁物です。
文化祭	集団の力や伝統の大切さを学ぶ。	およそ2か月の準備期間を経て開催される文化祭は、本校の生徒にとって「〇〇高校の生徒」としての…

図2 2年生の大切さを伝える卒業生の体験談



〇〇大薬学部合格 Aさん

2年生の2学期から成績が大きくアップしたAさん。放課後はサッカー部の練習に毎日参加していたが、帰宅後1時間の復習と、始業前1時間の予習(数学と英語)を入学時から欠かさず続けていた。更に2年生からは「模試ノート」を作成し、模試で間違った問題は解法を覚えてしまうまで何度も解き直した。また、苦手な英語は、授業後、教科担任に質問に行くことが多かった。

□□大法学部合格 Bさん

2年生3学期から成績が上昇し始めたBさん。家庭学習の習慣を確立したのは2年生から。英語・古典は予習を、数学は復習を中心に、毎日3時間の家庭学習を行った。また、土日は理科、地歴公民の復習(教科書、ノートの見直し)と、数学の教科書例題の解き直しに当たった。これらの学習計画は2年生の4月に担任との面談を通して立てたものだ。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。
<http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ(高校向け) > 生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス〈プラスαの指導〉

保護者との世代ギャップを
念頭に入試情報を伝える

進級と共に保護者の入試への関心は高まるが、保護者が高校生だった頃と今の進学状況の違いを理解していない保護者もある。保護者に向けて入試の多様化や、カリキュラム、就職支援などにおける大学の個性化について、この時点からしっかりと情報発信を行っておくことが大切だ。志望校を設定していく生徒に寄り添えるような保護者となるよう導きたい。

部活動での保護者の
つながりを活用する

試合の応援や合宿など、部活動を通して保護者が学校とつながるケースは多い。そこで、クラスや学年でのつながりだけではなく、部活動のつながりも視野に入れて学校への理解を促す手立ても有効だ。部活動顧問を通じて、文理選択後のこの時期の重要性や、2年生になることで生活はどのように変化するかなどを伝え、学習と部活動の両立の重要性などについて理解を促す。

進級が難しい生徒と保護者に
学年団全体で向き合う

進級が難しい生徒とその保護者に対しては、担任だけではなく学年団で向き合うことが大切だ。特に保護者には、各教科で行ってきた指導とこれからの見通しを話し、生徒のことを学年団全体の問題として捉えてきたことを伝えて、理解と協力を得たい。課題を抱える生徒を学年全体できめ細かく見取り続けることで、いざというときにその学年の集団としての力が発揮できる。

目的別データ活用

1 文理選択を ゴールにさせず 進路意識を 途切れさせない

……→ 図3

◎生徒は文理選択に向けて進路意識を高める。しかし、文理選択が一段落すると、それで一安心してしまうことも少なくない。文理に分かれて授業が始まる新学期を前にした2年生0学期を「文理の内定期間」と捉えて、文理選択で高まった意識を持続させて学習に向かわせる。具体的な指導としては、模試の帳票を用いて、生徒の弱点や得意科目を洗い出し、それを踏まえた上で家庭学習計画表を作成させる。文理選択の過程を振り返りながら、希望進路においてキーとなる科目を確認することも大切だ。文系・理系の覚悟を持った生徒にするために、何が必要かを考えたい。

2 生徒に応じた 具体的な声掛けで 学習に向かわせる

……→ 図4

◎図3を用いて2年生0学期の計画を立てる際には、可能な限り面談を行い、生徒の家庭学習計画をチェックする。文理選択の過程で設定した志望を目指す上で鍵となる科目と、模試成績から見た2年生になるまでの3か月間に必要な学習を、生徒本人に気付かせ、語らせることが大切だ。だが、中には文理選択での思考の深まりが十分ではなく、言葉が出てこない生徒もいる。そんな生徒には、図4のような「苦手科目を克服する」「得意科目をつくる」という二つの柱を提示し、学習の大きな方針を立てさせると良いだろう。

対生徒
への
データ

2年生0学期を「文理の内定期間」とし
進級に備えた学習に着手させる

データ活用の流れ

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4
◎模試の成績などから、各生徒の特徴をつかむ。苦手科目についてはどの分野が得意なのかまで把握する	◎志望と現在の学力、頑張るべき科目を踏まえた上で、家庭学習計画表を作成させる(図3)	◎図3を記入させるに際して、生徒の文理選択を踏まえた声掛けを行う(図4)	◎定期的に計画通り学習が進められているかを点検し、2年生進級時にスムーズなスタートを切らせる

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも併せてご活用ください！ 右のウェブサイトでご覧いただけます。

- 2009年2月号「1年生春休み前後の学習意識の向上」
- 2009年12月号「2年生0学期」を見通した1年生2月までの学習習慣の定着」
- 2010年12月号「目標とのギャップを埋める2年生0学期への意識付け」

Benesse® 教育研究開発センター

<http://benesse.jp/berd/>

生きたデータの徹底活用 クリック!

HOME→情報誌ライブラリ(高校向け)→
生徒指導・進路指導ツール集でご覧ください

加工可能な資料が
ダウンロードできます!

生徒指導・
進路指導
ツール集

ウェブサイトで
ダウンロード!

図3 「文理の内定期間」の家庭学習計画

1年 組 氏名 _____

●選択した方に○を [(文系) ・ 理系]

●志望大 第1志望 A大学経済学部 第2志望 B大学経済学部

●入試科目 (センター: 国、教、英、地歴公民、理) (センター: 国、教、英、地歴公民、理)
 (個別: 国、教、英) (個別: 英)

●模試成績から明らかになった「頑張るべき教科・科目」

●頑張って克服する教科・科目 数学 ●頑張ってもっと伸ばす教科・科目 英語

●その学習法

次の模試までに数列を見直す
定期テストの問題を解き直す

課題プリントを見直す
き直す

学習計画を具体的なものにするために

◎「頑張るべき教科・科目」は模試成績を踏まえて生徒自身が決定するが、学習計画を出来るだけ具体的なものとするために、複数回分の模試の分野別成績を比較して、強化すべき分野を絞り込ませるようにする。模試の価値は結果に一喜一憂することではなく、学習の指針として活用していくことにあることを2年生0学期に理解させたい。

●家庭学習計画

期間	月	日	計
12/5 ~ 12/11	教2 英2	教2 英3以上	教12 英12以上

図4 生徒の文理パターンに応じた声掛け例

文理	生徒の状況	声掛け例
文系	数学・理科が苦手	<ul style="list-style-type: none"> ◎数学や理科を諦めると、教科学力のトータルバランスが必要な国立大進学を難しくしてしまう。進路選択の幅を狭めないためにも、授業中心で勉強を続けよう。 ◎文系でも数学や理科を課す入試はたくさんある。数学や理科を合格者の平均点レベルをもってこれれば志望実現の可能性は高まるので、苦手分野を克服しよう。
	苦手科目はないが得意科目もはつきりしない	<ul style="list-style-type: none"> ◎2年生になると、地歴公民の授業も多くなる。地歴公民の中から「これだけは負けない」という得意科目をつくれるよう、1年生で習った内容を復習しよう。 ◎英語、国語、地歴公民は入試で配点が高い。これらの3教科についてこれまでの模試を解き直し、得点力を上げておくと、得意科目になるかもしれない。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。
<http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ (高校向け) > 生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス (プラスαの指導)

学年の学力傾向を踏まえて 演習問題を絞り込む

進級を前に、1年生の学習範囲の復習用教材を決める。市販の問題集を指定してもよいが、生徒が無理なく最重要ポイントを確認できるよう、教科担任が問題を厳選し、まとめていくとよい。各単元で「重要問題50」更に「重要問題20」など、その学年の学力傾向を踏まえて問題を段階的に絞り込む。基礎基本を生徒に示す学年独自の問題集を作る過程で、教師の指導力も磨かれる。

3か月先を見通して 行動する習慣を養う

2年生0学期の約3か月間の過ごし方によって、2年生4月をより良い状態で迎えられるかどうかが決まる。このように、「今の過ごし方が将来をつくる」「将来を見通して、今の過ごし方を決める」習慣を、生徒に徹底させることも大切だ。2年生になると模試の回数も増え、生徒は結果に一喜一憂がちだ。3か月先の自分を見通し、その間は地道に努力を続けることの大切さを伝えたい。

文理選択は 苦手を捨てる選択ではない

「数学が苦手だから文系を選んだ」など、文理選択の理由を後ろ向きな姿勢で語る生徒は少なくない。しかし、生徒が「捨てた」と考えた教科であっても、志望を精査すると、高配点ではないものの、センター試験などで必要とされている場合は多い。苦手教科とはいえ「捨てる」ことは簡単には出来ない現実を伝えた上で、「今のうちならまだできることがあるはず」と生徒に伝えていく。